

## ■ご挨拶

# 監事ご挨拶

## —海外にみる風力発電リスクの考え方—

日本風力発電協会 監事 足立 慎一

SOMPO リスケアマネジメント株式会社

リスクエンジニアリング開発部 執行役員 部長



### はじめに

今年で、3年目の監事となります。どうぞ、よろしくお願いいたします。また、本年4月より弊社社名が変更（旧社名：損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社）となりました。併せてよろしくお願いいたします。

### 海外への出張

昨年、風力発電業務に携わって初めて海外に出張する機会を得ました。ひとつは、5月にNEDOスマートメンテナンス業務に関連して、オランダとドイツにおける風力発電のO&M状況調査（独立系サービス会社へのヒアリング調査）に行ったこと。さらに、10月に台北で洋上風力セミナー（現地保険会社向け）の講演をおこないました。

### 欧州2国のO&M状況について

オランダの風力発電の特徴として、中小規模の発電事業者が多いことが挙げられます。農家が数本の風車を保有していることも珍しくはありません。O&Mについては専門外ということで、サービス会社に稼働率保証を含めたフルメンテナンス契約を行うことが一般的なようです。サービス会社は、主要コンポーネントを含めた部品の修理・交換を独自の判断で行うことができ、初期の不具合でまだ運転可能状態であっても、定期検査時にさっさと交換してしまいます（修理したコンポーネントは予備品としてストックします）。O&Mフィーは高くても、修理費の高騰化を防ぐことができ、ダウンタイムも発生しなくなることから、稼働率向上による発電収入増がO&Mコストを上回ります。

ドイツのサービス会社も同様の取り組みを行っていますが、こちらの顧客層は規模が大きい専門発電事業者が占めています。欧州でもO&Mは圧倒的にメーカーが多いのが実態ですが、それでも独立系のサービス会社のシェアが徐々に増えています。訪問した会社では、扱うメーカーを絞る（Vestas、Micon、SIEMENS）こ

とで効率的かつ専門的サービスを提供しており、1,670本あまりの風車にサービスを提供しています。こちらでも修理部品の再利用をおこない、パーツのストック管理とロジスティックを独自に構築しています。

両社に共通することとして、24時間体制で全風車の遠隔監視をサービス会社で実施し、トラブルシューティングの初動対応も実施します。

そのまま日本に導入するには課題も多いと思われませんが、大いに参考になります。

### 台湾での風車保険リスクの受けとめ方

文献によると台湾の風車の稼働率はあまり高くないものの（故障が多い）、大きな事故がないとされていましたが、昨年8月に台風13号で8基に多大な被害が生じました。直後の時期のセミナーだったため、現地保険会社のアンダーライターも自然災害リスクに対して非常に高い関心を寄せていました。今後の洋上風力プロジェクトでの保険リスク評価にも変化が見られるかもしれません。質疑応答では「東日本大震災で日本の風車は何基くらい倒壊したのか？」という質問もありましたが・・・。

### おわりに

今年も、理事会を含む協会活動全般について、適正な運営が維持されますよう、監事業務の遂行をしてまいる所存です。皆様のご指導ご協力をよろしくお願いいたします。



【写真】 ブレーメン・ヴァランラーゲンの風車